



持続可能な生産・消費を実現するため、 伝統社会が保持していた知恵を 発掘し活用しよう

Revitalising traditional wisdoms on
sustainable consumption & production

July 13, 2010

加藤三郎 (NPO法人環境文明21 共同代表)

Saburo Kato

Chairerson, Japan Association of Environment and
Society for the 21th Century (JAES21)

1

NPO法人 環境文明21

1. 何故「持続可能な生産・消費」を問題にするのか？

Why sustainable consumption & production matters?

・世界の人口や経済規模が急速に拡大する中であって、地球という空間の有限性が多くの人に実感されるようになった。

・具体的には

○環境(大気、水、土、生物)の制約

○資源(化石燃料、食料、鉱物等)の制約

○価値観の揺らぎ、混乱

・世界中でこのような状況をもたらした大量生産、大量消費、大量廃棄のパターンは、もはや持続可能ではないとの認識と危機感を多くの人が共有し、持続可能な生産、消費の在り方の探究が開始された。

2

NPO法人 環境文明21

2. 何が大量生産・大量消費・大量廃棄をもたらしたか What brought about mass production/consumption/disposal?

・科学技術の止まることのない発展

・自由な競争市場の形成と拡大

・欲望の肯定 (←宗教・倫理感覚の後退)

・強い「成長」願望

3

NPO法人 環境文明21

3. 江戸時代以前、西洋文明が流入する前の日本には、 無限に膨張する欲望を抑える知恵があった Japanese wisdoms before Westernization to restrain limitless desires

その前提には

・豊かな自然に恵まれた国土

・仏教・神道・儒教・道教などに培われた国民の
価値観・倫理意識

・鎖国政策により半ば鎖された空間

このような政治的、文化的、経済的環境の中で次のよ
うな8つの知恵が育まれ保持された。

4

NPO法人 環境文明21

8つの知恵

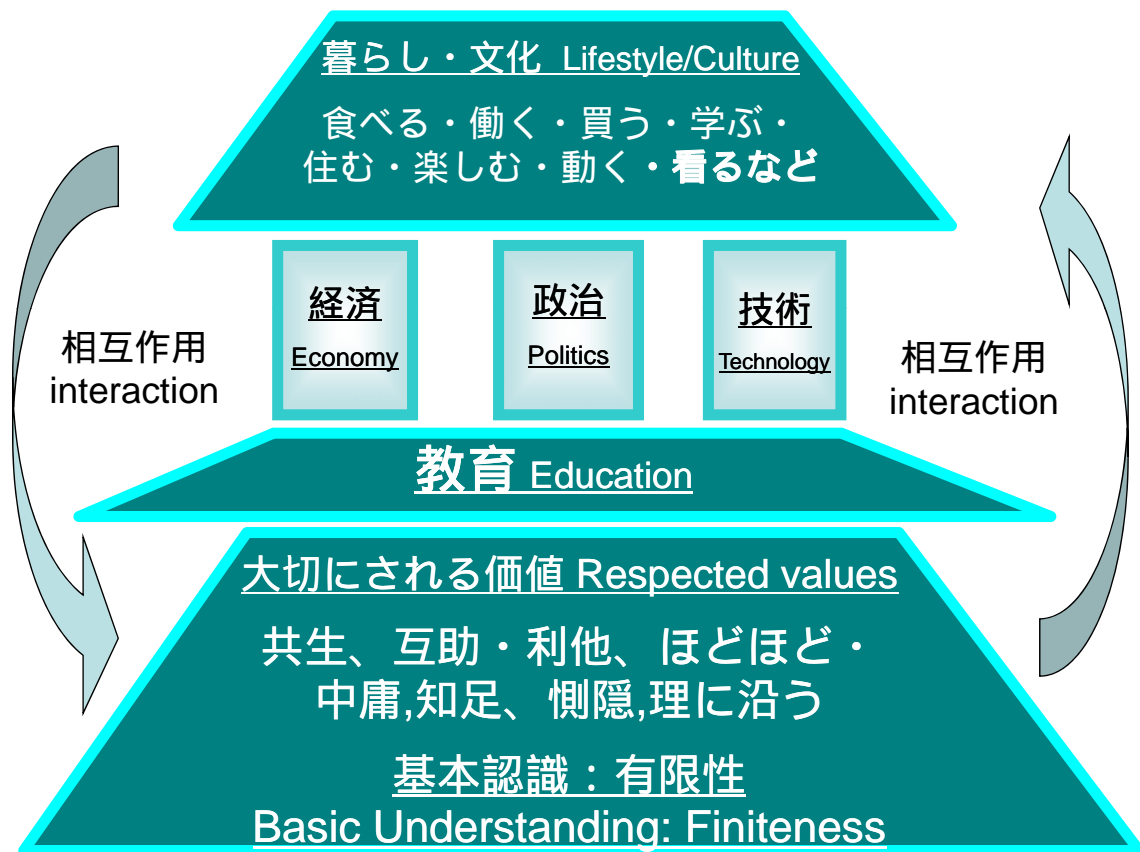
The eight wisdoms in traditional Japanese societies

1. モノへの執着より精神的な豊かさや心の平安を重視していた
2. 自然と同化し、自然との共生の精神を基盤にしていた
3. 足るを知る、自足の心を持っていた
4. 輪廻、循環思想が根付いていた
5. 調和を大切にし、家や地域などの集団の存続を重視していた
6. 精神の自由を尊ぶ気風があった
7. 先祖崇拝や先人を大切にすることで命や暮らしをつないでいた
8. 教育の価値を認め、次世代を愛し育てることに熱心だった

4. 何が必要か？

What is required today?

- ・21世紀に真の「持続可能な生産・消費パターン」を実現するためには、省エネやリサイクル(再資源化)のための技術や法制度を発展させるだけでは足りない。
- ・人々の価値観や精神的基盤を、上述の8つの知恵を足掛かりとして、たて直す必要がある。
- ・持続可能な生産・消費を実現するとは、持続可能な文明社会を作ることには他ならない。(私たちはそのような社会を「環境文明社会」と呼んでいる。)
- ・その構造は、次のようなものと構想している。



持続可能な生産・消費を促す知恵は、アジア、パシフィックには、
 今でも潜在している筈。
 それを発掘し、21世紀の国づくり、地域づくりに活用しよう。

Wisdoms fostering sustainable consumption & production can be
 further learned from, and utilized in Asia & Pacific societies.